

平成26年度 部局自己評価報告書（電子光理学研究センター）

Ⅲ 部局別評価指標

- 1 東北大学グローバルビジョンにおいて各部局が定めた「部局ビジョン」の重点戦略・展開施策または部局第2期中期目標・中期計画における特色ある取組の進捗状況と成果
 ※ 評価年次報告「卓越した教育研究大学へ向けて」で報告する内容

1. 光子ビームによるクォーク核物理

電子光理学研究拠点とサブアトム科学科学研究拠点（大阪大学核物理研究センター）による拠点間連携事業として進められている LEPS2/BGOegg プロジェクトは順調に進行している。平成 25 年度内に 1,320 本の BGO 単結晶で構成される 4π 電磁カロリメータ BGOegg の設置が完了し、ビームによる調整に入った。

2. 電子散乱による短寿命不安定核の核構造解明

理化学研究所仁科センターとの連携研究として進められている SCRIT プロジェクト（電子散乱による短寿命不安定核の核構造解明）は順調に進行しており、大型双極電磁石やドリフトチェンバ等の検出器が設置された。

3. 超高輝度コヒーレント光源開拓研究

コヒーレント THz 光源としてのテスト加速器 t-ACTS(test accelerator as a coherent terahertz source)を建設し、フェムト秒領域の超短バンチビームの開拓研究を推進した。

4. 加速器共同利用研究

地下貯留槽損壊に伴う地上型貯留槽・排水浄化設備の新設（平成 25 年 7 月 31 日竣工）や施設検査（平成 25 年 12 月 12-13 日実施）を受け、平成 25 年 12 月 20 日に加速器の共同利用が再開された。共同利用者延べ人数は、再開後 3 ヶ月で震災以前の 1 年間の延べ人数を上回っている。

5. 研究拠点としての研究環境整備

震災以前から拠点事業として計画が進められていた研究棟改修・改築は、震災復旧工事が優先のため繰り延べになっていたが、平成 25 年度後半に着工となった。共同研究者、客員研究者、国外研究者のための研究室スペースを確保し、小規模の国際ワークショップなどに使える三神峯ホール（120 席）を新設した。